

## ラテン・アメリカ政経学会 平成 28 年度総会資料

平成 28 年 11 月 6 日（日）13:30～14:30（予定）

於：東京大学駒場キャンパス 18 号館

4 階コラボレーションルーム 1、2

### 議事次第

#### 審議事項

1. 平成 27 年度活動報告 (資料 1)
2. 平成 27 年度会計報告 (資料 2)
3. 平成 28 年度事業計画 (資料 3)
4. 平成 28 年度予算 (資料 4)
5. ラテン・アメリカ研究者招聘補助事業の実施について (資料 5)
6. 理事の選出と役割分担について (資料 6)
7. 監事の選出について (資料 6)
8. その他

#### 報告事項

1. 『ラテン・アメリカ論集』 No.50 の発行について (資料 7)
2. 会員の入退会動向について (資料 8)
3. 平成 29 年度全国大会開催校について
4. その他

総会終了後 平成 28 年度研究奨励賞授与式

## 資料 1

### 平成 27 年度活動報告

平成 27 年度に以下の事業を行った。

- (1) 11 月 14 日～15 日に横浜国立大学で全国大会を開催した。
- (2) ラテン・アメリカ論集第 49 号を発行した。
- (3) 研究奨励賞を募集し、選考委員会が選考を行い、受賞者を決定した。
- (4) 12 月 19 日に京都大学地域研究統合情報センターで関西部会を開催した。
- (5) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流した。
- (6) 学会ホームページを更新して社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供した。

資料 2

ラテン・アメリカ政経学会  
平成27年度（平成27年4月1日～28年3月31日）会計報告  
（平成28年3月31日現在）

(1) 一般会計

収入の部			支出の部	
前期繰越金	3,735,307	A		
会員会費収入	878,000		全国大会開催関係費	194,643
（個人会員）	878,000		学生会員への旅費補助	0
（維持会員）	0		印刷費	390,960
雑収入	550		消耗品費	1,188
（預金利息）	550		通信費	106,942
			事務局経費	119,862
収入合計	878,550		支出合計	813,595
差引残高（収入－支出）	64,955	B		
			次期繰り越し金（A+B）	3,800,262

会計監査報告

上記の平成27年度会計報告は、領収書ほかの証拠書類と照合したところ、適正に処理されていると認めます。

平成28年 10月 4日

監事

松井 謙一郎



監事

嵯峨 可保子



### 資料3

#### 平成28年度事業計画（案）

平成28年度に以下の事業を行う。

- (1) 11月5日～6日に東京大学駒場キャンパスで全国大会を開催する。
- (2) ラテン・アメリカ論集第50号を発行する。
- (3) 地域部会を開催する。
- (4) 地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流する。
- (5) 研究奨励賞の選考委員会を設置して選考を行い、受賞者を決定する。
- (6) 次期理事選挙を実施する。
- (7) 学会ホームページを通じて社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供する。
- (8) 国際学術交流を実施する。
  - 1) ラテン・アメリカから研究者を招聘する会員への補助事業の試験的实施
  - 2) 日中韓ラテン・アメリカ研究ネットワークへの参加
- (9) その他、本会の目的に合致する事業。

## 資料 4

## 平成 28 年度予算(平成 28 年 4 月 1 日～29 年 3 月 31 日)(案)

(平成 28 年 11 月 1 日作成)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	3,800,262		
会員会費収入	880,000	全国大会開催校補助	150,000
（個人会員）	(880,000)	学生会員に対する旅費補助	0
（維持会員）	(0)	全国大会招聘者謝金	70,000
		研究奨励賞（楯・副賞）	38,660
雑収入（預金利息など）	600	印刷費・編集費（論集）	380,100
		（抜き刷り）	10,000
		国際交流・研究者招聘補助	156,360
		事務局経費	
		（ホームページ維持費）	38,030
		（通信費）	100,000
		（事務局移転送料）	50,000
		（その他）	100,000
収入合計	880,600	支出合計	1,093,150
		今期収支	-212,550
		次期年初残高	3,587,712

## 資料5 ラテン・アメリカおよびカリブ地域研究者招聘事業について

### 提案の背景となる財務状況

JSLA の財務状況は、過去 6 年間、以下の表のように推移してきました。この間、50 周年記念事業で約 60 万円の非経常支出がありましたが、ほぼ繰越金の水準を維持しています。

(単位：円)

	期首	収入	支出	50 周年	当期収支	期末
H22	3,716,817	934,865	892,954		41,911	3,758,728
H23	3,758,724	902,542	815,743		86,799	3,845,527
H24	3,845,527	890,800	817,080		73,720	3,919,249
H25	3,919,247	983,336	724,878	550,000	-291,542	3,627,705
H26	3,627,705	905,696	798,094	45,168	62,434	3,735,307
H27	3,735,307	878,550	813,595		64,955	3,800,262

この要因としては、未納会費の徴収強化、論集編集委員の努力により出版経費が 2 割程度削減されたことと、事務局経費抑制、会員数の増加（H22 年 142 名→H28 年 159 名。いずれも各年総会時点）などです。会費収入は 80 万円超で安定しています。H27 年度から研究奨励賞の賞金を経常支出に吸収しましたが、今後とも繰越金を取り崩さなくても持続可能なものだといえる見通しが立ちました。

現在の活動水準を維持しても財務基盤が安定したと理解したうえで、改めて当学会の繰越金について見直す必要があると思われます。学会の経常的事業予算は平均して年間約 80 万円ですので、現在保有している 380 万円の繰越金はその約 4.7 倍にも達します。しかし今後の使用目的については何ら計画がありません。今後も低金利が続くと予想される状況であり、定期預金に入れておいても経常収入への貢献は年間 600 円未満でしかありません。

本学会の現在の財務状況からみて繰越金は過剰な水準で維持されていると判断します。繰越金の一部を積極的に使って、学会の目的に適った学術的および社会的に意義のある事業を、予算を限定したプロジェクトとして実施し、学会活動をいっそう活性化することを提案します。

### 具体的な提案

- ① 繰越金を現在の事業予算規模である 80 万円の 3 倍に相当する 240 万円+ $\alpha$  まで削減することをめどにして、**100 万円をプロジェクト予算に割り当てる。**

② このプロジェクトで行う事業は以下のとおりとする。

- (ア) 会員がラテン・アメリカおよびカリブ地域から研究者を招聘し共同研究を行う費用の一部を負担する。
- (イ) 招聘対象者は会員から提案を募集し、理事会が決定する（年間1名）。
- (ウ) 招聘される研究者は、全国大会で招待講演を行い、『ラテン・アメリカ論集』に講演原稿を掲載するほかに、会員との交流の機会をもつことを通じて、会員全体にメリットが及ぶようにする。
- (エ) 本事業の予算は、招聘に要する航空運賃の半額と大会実施日前後 2泊分の宿泊費とし、**1年間につき上限を25万円とする。**
- (オ) 提案が採択されて招聘を担当する会員は招聘費用の残りを、会員が持っている研究費等で負担しなければならない。
- (カ) 招聘を担当する会員は、学会活動に参加する以外の残りの招聘期間を会員自身と招聘者の共同研究に充てることができる。

#### 本プロジェクトに期待される効果

これまでラテン・アメリカの研究者に大会で招待講演を依頼することがあったが、それはたまたま他の事情で来日している研究者に依頼できる場合であり、会員の所属機関の経費にフリーライドしてきた状態を是正できる。

学会が主体的かつ戦略的に時宜に適った会員の間で関心が高いテーマの専門家を選択して招聘することが可能になるので、講演と『論集』原稿を通じて会員が得られる知識はより満足度が高いものになる。

招聘する研究者に学会の存在をより強く印象付けることができるので、ラテン・アメリカの学会の主要な関係者を招聘することができれば友好関係が強まり、本学会の会員が海外学会にも参加しやすくなり、学会間国際交流が促進される等の波及効果が期待できる。

全国大会開催引き受けと合わせて本制度を利用できるので、会員が大会開催を引き受けるインセンティブが高まる。

これまで学会では、会員のメリット向上に向けて、シニア会員制度、学生会員大会参加補助、40歳以下会員を対象にした研究奨励賞、などを導入してきた。しかしこれらの対象者は一部の会員に限定されている。このプロジェクトはすべての会員が利用可能なものであり、学会活動のいっそうの活性化が期待できる。

以上

## ラテン・アメリカおよびカリブ地域研究者招聘事業実施細則（案）

### 本事業の目的

本事業はラテン・アメリカおよびカリブ地域の研究者（以下、招聘研究者）との共同研究を行おうとする会員に対して、同地域からの優れた研究者を招聘することを支援するとともに、他の会員に対してもその知見に触れる機会を提供し、会員の研究ネットワークを拡充することを目的とする。

### 本事業の補助対象者

本事業の補助対象者は、次の1～3に掲げる要件をいずれも満たす会員とする。

- （1）ラテン・アメリカおよびカリブ地域の研究者と共同研究を実施していること。
- （2）本事業と費用分担を行える研究資金を有していること。
- （3）会費納入を完了していること。

### 補助金申請の要件

本事業の補助を申請しようとする会員は、理事会の募集に応じて以下の文書を提出する。

- （1）招聘提案書（所定書式）
- （2）招聘研究者の履歴書（業績リストを含む）
- （3）費用の裏付けとなる文書

### 補助対象者の決定

理事会は補助対象者を会員から広く募集し、本事業の目的と補助金交付の要件に適合し、最も優れた内容の提案を補助対象に選定する。

### 補助金交付の要件

1. 採択予定件数は原則として毎年1件とする。ただし、前項の規定により、選考の結果補助対象者無しとすることがある。
2. 補助額は社会通念上妥当な支出内容に対して、1件当たり25万円を上限とする。
3. 招聘研究者は、以下の（1）～（3）に掲げた本学会の活動への活動に参加することが求められ、補助対象者はその遂行に責任を負う。
  - （1）全国大会で招待講演をおこなう。
  - （2）講演の内容を『ラテン・アメリカ論集』に掲載する。
  - （3）その他理事会が求めること。
4. 補助金の用途は以下の（1）～（4）に係る費用とする。
  - （1）招聘研究者の国際航空運賃の半額。
  - （2）全国大会に参加するための2泊分の宿泊費と日当。



(3) 全国大会に参加するための国内交通費。

(4) その他理事会が適切と認めた費用。

5. 国際航空運賃、国内運賃は実際に要した金額とする。宿泊費は実際に要した金額と日額15,000円のどちらか低いほうの額を支給する。日当の額は、補助対象者の所属機関の旅費規程等で定められた日額を支給する。該当する規程等がない場合は、支給しない。宿泊費と日当の合計は15,000円を上限とする。

6. 補助金の支払いは、原則として、補助事業終了後の精算払いとする。支出額の裏付けとなる領収書を添付して、学会事務局に請求すること。国際航空運賃の学会負担分については、旅行代理業者等から請求があった額を事前に振り込むことがある。

#### 本事業の予算

事業開始から終了までの予算は、繰越金から合計100万円を予定する。

#### その他

招聘研究者が全国大会で招待講演をおこなった場合に、理事会が認めた所定の額を、準備に要した調査費として、本事業の補助金と別に支払う。

## 資料6 理事と監事の選出について

### ○理事の選出について

ラテン・アメリカ政経学会理事選挙実施要綱抜粋

1. 理事の総数は10名程度とし、うち約6名は会員の選挙によりこれを選任し、約4名は選挙により選ばれた理事の推薦にもとづき会員総会においてこれを選任する。

上記の規定により、次の6名の会員が選挙により選任された。

受田宏之，村上勇介，坂口安紀，清水達也，安原 毅，山崎圭一

選挙により選任された理事から、次の4名の会員が理事に推薦された。

宇佐見耕一，住田育法，宮地隆廣，桑原小百合

### ○監事の選出について

ラテン・アメリカ政経学会監事選出要綱は、「監事は、会員総会において会員の提案にもとづき選出する。」と定めている。

資料 7

ラテン・アメリカ論集 No. 50 (2016年) 目次

<寄稿>

『ラテン・アメリカ論集』における研究動向 浜口 伸明

La evolución del sistema de partidos uruguayo:  
en busca del equilibrio perdido Buquet Corleto, Daniel

<研究論文>

小農と有機農業の普及ネットワーク 受田 宏之  
—メキシコにおける参加型認証の事例—

<書評>

水上啓吾 著『ソブリン危機の連鎖 福味 敦  
—ブラジルの財政金融政策—』

清水達也・二宮康史・星野妙子 著『ラテンアメリカの中小企業 藤井 嘉祥

伊藤秋仁・住田育法・富野幹雄 著『ブラジル国家の形成 二宮 康史  
—その歴史・民族・政治—』

国本伊代 編著『ラテンアメリカ 21世紀の社会と女性』 安井 伸

坂口安紀 編著『チャベス政権下のベネズエラ』 岡田 勇

<学会消息>

資料 8 会員の動向

入会者			
	氏名 (種別)	所属	推薦会員
1	松永有希子 (学生)	東京海洋大学大学院	浜口伸明
2	三浦航太 (学生)	東京大学大学院	受田宏之
3	楊殿閣 (学生)	東京外国語大学大学院	宮地隆廣
4	中沢知史 (学生)	早稲田大学大学院	宮地隆廣
5	笛田千容 (一般)	政策研究大学院大学	受田宏之
6	中井愛子 (一般)	東京大学大学院	高橋百合子
退会者			
	会費長期滞納による除名	1名	
会員数 (在外会員を含む)			
	一般会員 (学生、シニア含) (平成 27 年 11 月 15 日)		155 名
	新入会員		6 名
	退会会員		0 名
	長期会費未納による除名		1 名
	一般会員 (学生、シニア含) (平成 28 年 11 月 5 日現在)		160 名
	法人会員		0 社